高橋 綾子

現代アメリカ女性詩集

『現代アメリカ女性詩集』
高橋綾子、小川聡子著／思潮社

私の初めての翻訳詩集が出版されましたので紹介したいと思います。私は、学生時代からアメリカ現代詩を専攻してきました。アメリカ現代詩と聞いて、音楽の好きな人なら、ボブ・ディランを知っているでしょう。そもそも、なぜ人は詩を書くのでしょうか。詩は声に出して読み、時に言霊が生まれ、聴く人に強い力を与えます。言葉に深いメッセージを込めて、伝達することができるのです。ディランが活躍するもう少し前の1956年以降、アメリカでは、詩の朗読が文化的な力を持つほどになりました。私は学生時代、詩のもつ文化的な力にとても興味を持ちましたので、代表的な詩人の作品を読みました。それは、男性詩人ばかりでした。1970年以降フェミニズム運動が興りましたが、それよりもずっと前ですから、男性中心なのは当然かもしれません。そこで、女性詩人の作品が日本で翻訳紹介されていないことに着目しました。とりあげた詩人は、アン・ウォールドマン、ダイアン・ディ・プリマ、ジョアン・カイガー、ジェーン・ハーシュフィールドの４人で、翻訳とともに、それぞれにインタヴューを行い収録しました。ここでは代表的な詩のフレーズを紹介しましょう。

アン・ウォールドマンは、著名なパフォーマンス詩人ですが、1978年コロラド州ボウルダー核兵器製造工場に反対し、水素爆弾工場へ通じる鉄道線路の上で座禅を組み、逮捕されました。このことを歌った詩の抜粋が次の引用です。

【代表作　私は覚えている、逮捕されたことを・・・】

私は覚えている　ロッキー山脈の核兵器製造工場で逮捕されたことを、

私は覚えている　私たちがロッキーフラッツの敷地内で座り込みをしたときに、その守衛がメガフォンをもってカウントダウンをしたことを。「あと十分でここから撤退せよ・・・九分・・・八分・・・」など。

私は覚えている　ロッキー核施設の周りに巨大な人間の輪を何マイルも作ったことを。

私は覚えている　ロッキー核施設の近くに乗馬に行った時、馬小屋で毛のない奇形の小牛を見たのを。

引用の詩は、「私は覚えている」を繰り返す手法ですが、「リスト」とよばれる

詩学の形式です。この繰り返しがあるので、リズミカルになります。この詩を読むと、詩人がロッキー核施設周辺の被害の事実を告発し、その事実から市民としていのちや生活を守るために立ち上がらなければならなかった決意が表明されていることが解ります。現在、福島の問題に直面する日本人にはとても大きな意義を与えてくれる詩です。この詩集全体を通して、詩に込められたいのちの尊厳の視点に気づいてもらえたら、翻訳者として大変嬉しく思います。

執筆者紹介

高橋　綾子

教育開発系准教授。専門領域は、アメリカ現代詩、環境文学、ゲーリー・スナイダー研究。

『書名』　著者名　翻訳者名　出版社または文庫・シリーズ名　出版年　税込価格

『現代アメリカ女性詩集』高橋綾子、小川聡子著　思潮社　2012年　2,520円

ブックガイド目次へ